

企画名	北部広域保健師事例検討会
実施日	第1回～第4回：8月20日 10月31日 12月18日 2月16日
企画実施組織	永吉ルリ子・比嘉憲枝・仲本優子・松田めぐみ
企画の目的・概要	<p>目的：保健師の受け持ち事例や事業等を通して、地域担当保健師が住民に対して、より良い支援ができるよう、支援の方向性を検討する。また、事例のまとめや情報交換することで、現役保健師の力量形成を図る。</p> <p>進め方：①事例紹介(事例の概要、支援経過、検討事項等)・・・10分 ②事例の確認及び質疑・・・20分 ③今後の支援の方向性・・・20分 ④事例提供者及び参加者の感想・・・20分 ⑤情報交換・・・30分程度</p> <p>事例提供者：①岡崎実子(伊是名村保健師)、②荒木善光(国頭村保健師)、③平安山孝子・玉城明子(本部町保健師)、④上原由里子(北部福祉保健所)</p> <p>検討日時及び検討事例等：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 8月20日 18:30～20:00 「一人暮らしうつ状態ケースへの支援」参加者は9人 ② 10月31日 18:30～20:00 「アルコール依存症者への地域支援」参加者は9人 ③ 12月16日 18:30～20:00 「要保護児童及び特定妊婦支援での関係機関との連携」参加者12人 ④ 2月16日 18:30～19:30 「難病患者及び家族支援」参加者15人
備考	北部広域市町村及び北部福祉保健所保健師の協力が得られた。
企画実施報告	<p>事例提供保健師の協力で、企画通りに4回実施することができた。参加者は、現役保健師等述べ45人であった。事例提供者の所感は、訪問支援内容・支援の経過を整理し報告することで、保健師自ら支援内容の振り返りができた。まとめる力がつき、タイムリーな個別への支援方法等保健師の先輩から助言が得られ、知識を得ることができた等であった。参加者からの所感は、事例検討することで、さらに、個別支援の在り方や地域で支える意義等再確認することができた。当事者・家族との信頼性の確立や関係機関との連携方法等、検討事例から数多く学ばされた等であった。今年度は、北部福祉保健所地域保健班長に、アドバイザー役を担ってもらった。北部広域現任保健師人材育成の一部が担えたと考えます。</p> <p>*継続して実施している事例検討会は、名桜大学看護実践教育研究センター事業目的「看護系職員、保健医療関係職員の看護実践能力の向上」に沿ったもので、「沖縄県保健師現任教育」の一端を担っていると考える。</p>
企画の実施評価	<p>公衆衛生保健活動の原点である個別支援について、個別訪問事例を通して、支援の方向性や支援のあり方等お互いが学ぶことで、よりよい住民サービスに繋げることができる。また、事例検討したことで、個別支援について振り返ることができた。さらに、名桜大学と公衆衛生活動現場が一体となり、保健師の現任教育を推進することができたと考ええる。</p>

今後の取組み

平成 26 年 9 月に北部広域現任保健師 68 人に事例検討会関連のアンケートを実施した。回収率 69% であった。現任教育人材育成のため等、継続実施の要望が多かった。名桜大学地域看護領域が、現任保健師人材育成の一助を担えるよう、次年度においても同様の事例検討会を開催する。



8月20日(水)



10月31日(金)



12月16日(火)



2月9日(月)